

1.本園の教育目標

- ☆ 健康で安全な暮らしのできる子ども
- ☆ 自分のことは自分でできる子ども
- ☆ 友達と仲良くできる子ども
- ☆ 自分から進んで取り組み、工夫しながら遊べる子ども
- ☆ 心情豊かな子ども

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的目標や計画

- ・行事の見直しとPTA活動の在り方を考える。
- ・子どもの理解と支援の方法を共有し、子どもの成長に繋げる。

3.評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	達成及び取り組み状況
(1)行事を見直し、家庭数の減少の中で、PTA活動の在り方も考えていくことができたか。	・全ての行事をコロナ禍以前の形式に戻すことができた。運動会はすべて制限を設けず、生活発表会は全クラスの保護者が観覧し、プログラムごとに演じるクラスの優先席を設けた。 ・保護者の負担が、少なくなるようにと、PTA役員さんたちの配慮により、実行委員会をなくし、手紙を配布して共通理解を図り行事に臨むことができていた。
(2)教職員間で幼児理解と支援の方法を共有することができたか。	・日々、保育終了後に担任と介助教諭が子どもたちについて話し合うことで、子どもたちの様子や関わり方を共有することができた。 ・特別支援教育を要する子どもたちへの支援計画を全教職員に配布し、個々の成長を周知し、共通理解することができた。 ・個人懇談会以外にも必要な懇談を行い、記録を全教職員に配布することで、支援の方法を共有できた。
(3)保護者や地域の施設と連携を密にし、子どもの成長をともに喜び合うことができたか。	・特別支援教育を要する子どもたちの様子を降園時に伝えたり、定期的に懇談をしたことで、保護者の理解と協力を得ることができ、共に子どもたちの成長を喜び合うことができた。 ・地域の施設、LITALICO・コペルプラス・ワンスタットから定期的に園訪問をしてもらい、幼稚園での様子を見ていただくことで、施設での支援にも繋ぐことができた。また、園訪問や園訪問後の連絡で、子どもたちや保護者の様子を詳細に伝えあうことができた。

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	・すべての行事をコロナ禍以前に戻すことができ、子どもたちも保護者もそれぞれの行事を楽しみ、たくさん褒めてもらうことで、満足感や充実感を味わい、成長に繋ぐことができた。 ・特別支援を要する子どもたちの支援計画や懇談の記録等を全教職員に配布したり、地域の施設の訪問支援記録や報告書を回覧したりすることや、日々の話し合いの中で、一人一人への配慮や支援の仕方を共通理解し実践したことが、一人一人の成長に繋がった。
-----	---

5.今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
異年齢のかかわり方を考える	令和8年度からの縦割り保育を見据えて、異年齢のかかわり方を工夫し、深める。
未就園児の活動	在園児の負担にならないよう工夫して、1学期から実施する。

6.学校関係者の評価

すべての行事をコロナ以前に戻すことができ、子どもたちの関わりが深まり互いに成長する姿が見られたこと、また、その様子を運動会や作品展、生活発表会、保育修了式場で、保護者や地域の方に見てもらえたことで子どもたちの成長を実感していただき、評価してもらえた。

7.財務状況

公認会計士による監査にて、適正に運営されていると認められている。